



各報道機関文教担当記者 殿

金沢大が大阪・東京でシンポジウムを開催!!

金沢大が世界に誇る最先端の研究を紹介

この度、金沢大学では、本学が有する世界に誇る最先端の研究を紹介するシンポジウム金沢大学創基 150 年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ「金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム—Features for the Future フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー—」を10月1日・大阪と10月29日・東京で開催いたします。

金沢大学創基 150 年記念「講演会・シンポジウム」シリーズ

入場無料

—Features for the Future フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー—

■金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム 2011 in 大阪

日時 平成23年10月1日（土）14:00～

場所 大阪ビジネスパーク円形ホール(大阪市中心区城見 2-1-61)

■第4回金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム

日時 平成23年10月29日（土）13:00～

場所 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2)

テーマ 「新研究領域を拓く—若手研究者による挑戦—」

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/events/11/10/29/index.html>

本学は「社会のための大学」として、基礎研究から実践研究までの卓越した知の創造に努めるとともに、新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることにより、積極的に社会に還元しています。

については、事前報道及び当日取材について、どうぞよろしく願いいたします。

本件照会先：金沢大学総務部総務課長 那加野
Tel：076-264-5006

担当：金沢大学広報戦略室 松本
Tel：076-264-5024

Features for the Future

フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー

金沢大学 未来開拓研究 公開シンポジウム 2011 in 大阪

2011
10.1 Sat

14:00~17:40

[会場]

大阪ビジネスパーク円形ホール
(旧：MID シアター)

大阪市中央区域見 2-1-61

入場無料

[東京でも開催]

第4回 金沢大学未来開拓研究
公開シンポジウム

日時/2011年10月29日(土) 13:00~16:40

会場/学術総合センター 2階 中会議場

東京都千代田区一ツ橋2-1-2

14:00 開会挨拶

14:15 特別講演

田中 隆治

金沢大学理事(公益財団法人サントリー生命科学財団副理事長,
東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授, 日本学術会議連携会員)

「夢へのチャレンジ」

— 食品企業とバイオテクノロジー —

15:15 休憩

15:40 講演

高橋 光信

理工研究域物質化学系・教授(サステナブルエネルギー研究センター長)

「期待膨らむ有機薄膜太陽電池」

— 理工研究域サステナブルエネルギー研究センターの目指すところ —

16:40 講演

長山 雅晴 理工研究域数物科学系・教授

「数学を通して皮膚を視る」

— 皮膚の数理モデルを目指して —

17:30 閉会挨拶

金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム 2011 in 大阪

日時 2011年10月1日(土) 14:00~17:40

金沢大学が有する世界に誇る先端研究を紹介するシンポジウム

「金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム 2011 in 大阪」を開催します。

講演要旨

「期待膨らむ有機薄膜太陽電池」

ー理工研究域サステナブルエネルギー研究センターの目指すところー

高橋 光信

理工研究域物質化学系・教授 (サステナブルエネルギー研究センター長)

世界のエネルギー事情について簡単に眺め、本年4月1日に設置された理工研究域サステナブルエネルギー研究センターについて説明する。そして、地産地消型エネルギーの効率的変換・創成・再資源化など、エネルギー生産からその利用までの一貫したエコシステムの構築に取り組む、本センターに設置された5部門の概説と、演者が部門長を務める有機薄膜太陽電池部門について、その発電原理から期待される用途、これからの課題について紹介する。

「数学を通して皮膚を視る」

ー皮膚の数値モデルを目指してー

長山 雅晴

理工研究域数物科学系・教授

普段から目に触れる皮膚は生命としてとても重要な機能を持っている。その一つが保水作用や外界からの細菌やウイルスの侵入を防ぐ皮膚バリア機能である。このバリア機能は皮膚の最も外側にある角層が担っており、角層が破壊されると直ちに回復する作用も持っている。このような皮膚バリア機能はどのようなシステムとして成り立っているのだろうか？ 数学を駆使して角層の数値モデルを作り、その謎に迫る。

特別講演

「夢へのチャレンジ」

ー食品企業とバイオテクノロジーー

田中 隆治

金沢大学理事 (公益財団法人サントリー生命科学財団副理事長, 東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授, 日本学会会議連携会員)

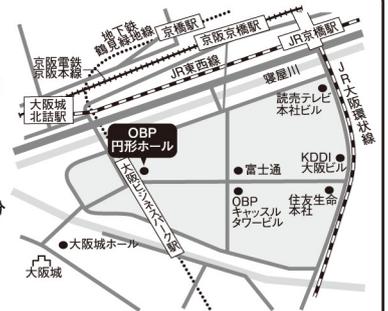
遺伝子組換え技術を基盤とした先端バイオテクノロジーの研究開発は21世紀の新しい科学の扉を開き、生命の真理の解明と同時に新しいビジネス創成に利用できる技術として期待されている。サントリーでは伝統的なバイオ技術と遺伝子工学を中心とした新しいバイオテクノロジーを駆使し、新しい事業展開にチャレンジしてきた。その中でも最も得意とする植物ポリフェノールの科学の新たな考え方、あるいは商品への付加価値を創り上げ、健康食品事業、花卉ビジネス事業、環境ビジネス事業へと拡大してきた経緯を紹介する。

ACCESS MAP

大阪ビジネスパーク
円形ホール (旧:MIDシアター)

〒540-0001
大阪府中央区城見2-1-61
TEL.06-6941-0941

- ・大阪市長堀鶴見線 / 大阪ビジネスパーク4番出口徒歩1分
- ・大阪環状線 / 京橋西口徒歩5分
- ・京阪電鉄本線 / 京橋町口徒歩5分



金沢大学未来開拓研究 公開シンポジウム 2011 in 大阪 参加申込書

参加無料

参加ご希望の方は、必要事項を記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
電話・電子メール・Webでの申し込みも可能です。

シンポジウム
申し込み締切 **2011年9月24日(土)**

お申込み・お問い合わせ先 / 金沢大学学友支援室

TEL 076-264-5081 FAX 076-234-4015

E-mail gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

※ご記入頂きました事項は目的以外の利用、第三者への提供はいたしません。
※東京会場の申込みについては、10月24日(月)までに下記へご連絡下さい。

■ 総務課 総務係 TEL. 076-264-5010 FAX. 076-234-4010 E-mail. ffk@adm.kanazawa-u.ac.jp

参加者氏名

職業

住所 〒

TEL

FAX

E-mail

@

【金沢大学卒業生記入欄】どちらかに○を付けてください。

シンポジウム終了後開催の
「関西地区同窓会合同懇談会」に

参加します / 参加しません

Features for the Future

フィーチャーズ・フォー・ザ・フューチャー

第4回

金沢大学 未来開拓研究 公開シンポジウム

新研究領域を拓く —若手研究者による挑戦—

2011
10.29 Sat

13:00~16:40

[会場]

学術総合センター2階 中会議場

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

入場
無料

- 13:00 開会挨拶
- 13:10 講演
井上 啓 フロンティアサイエンス機構・特任准教授
「インスリンによる肝臓での糖産出抑制機構」
- 13:50 講演
福岡 剛士 フロンティアサイエンス機構・特任准教授
「液中ナノイメージング技術の開発と
バイオサイエンスへの応用」
- 14:30 休憩
- 14:50 特別講演
金子 周一 医薬保健研究域医学系・教授
「肝臓：人体の生化学工場が果たす役割」
- 15:50 講演
松木 篤 フロンティアサイエンス機構・特任助教
「東アジアは大気エアロゾルのるつぼ」
- 16:30 閉会挨拶



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

第4回 金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム

日時 2011年10月29日(土)
13:00~16:40

[テーマ]

新研究領域を拓く —若手研究者による挑戦—

金沢大学が有する世界に誇る先端研究を紹介するシンポジウム「第4回 金沢大学未来開拓研究公開シンポジウム」を開催します。

本学では、2007年度に先端科学分野における若手研究者育成を目的した文部科学省の科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」が採択され、5年間の支援を受けています。

本年度は、同プログラムの最終年度にあたり、同プログラムで萌芽した世界をリードする可能性のある研究を紹介します。

講演要旨

「インスリンによる肝臓での糖産出抑制機構」

井上 啓 フロンティアサイエンス機構・特任准教授

肝臓の糖産生制御機構、特にインスリンによる肝糖産生の抑制メカニズムを理解することは、2型糖尿病を始め、インスリン抵抗性を介して発症する様々な疾患の原因解明につながる。新たにわかった事実をもとにして、新しい糖尿病の治療法開発につなげる可能性を探る。

「液中ナノイメージング技術の開発とバイオサイエンスへの応用」

福岡 剛士 フロンティアサイエンス機構・特任准教授

近年、ナノテクノロジーの中核を担う技術としてナノ計測技術が目覚ましい発展を遂げてきた。最近では、ナノ計測技術を、バイオサイエンスの分野へと応用することで、従来技術では不可能だった細胞を構成する分子を単一分子レベルで計測分析しようとする動きが世界中で高まっている。私たちは、従来真空中で用いられてきた周波数変調原子間力顕微鏡(FM-AFM)と呼ばれるナノ計測技術を液中で利用できるよう改良し、それをを用いて生体膜やタンパク質の挙動を分子レベルで探求する。

「東アジアは大気エアロゾルのるつぼ」

松木 篤 フロンティアサイエンス機構・特任助教

黄砂などでよく知られる大気エアロゾル(大気中に浮遊する数ナノメートル(100万分の1ミリメートル)~数十ミクロンの微小な粒子)は、太陽光を吸収・散乱するばかりでなく、雲の粒ができる際の種(雲核)としても働くため、気候変動に大きく関わっている。日本海沿岸域での観測に基づいて、黄砂と汚染大気の間わり及びその気候・環境学的役割の解明を目指す。

特別講演 「肝臓：人体の生化学工場が果たす役割」

金子 周一 医薬保健研究域医学系・教授

人体は食物に含まれる栄養を効率よく利用し、食物の種類が変化しても同じような栄養状態を維持するように進化してきた。人類は農業技術の進歩によって飢餓を克服し、多くの人が飽食の時代に入った。しかし、進化によって得られた巧妙な人体の仕組みが、逆に現代では多くの疾病を発症させている。栄養の取り過ぎ(過栄養)が関連する症候群に糖尿病、脂質異常症、肥満、高血圧、最近ではがんも含まれる。過栄養と疾病との関連は、人類の進化と進歩のミスマッチとも言える。このミスマッチの解消は科学の進歩によって制御できる。すでに、これらの疾病と内臓脂肪との関連がよく示されてきた。

私たちは“過栄養状態における肝臓の変化を明らかにすることによって新たな肝臓病の疾病概念を確立するとともに、肝臓機能の破綻によって生じる栄養性肝代謝異常症の診断及び治療法開発”を行っている。その成果の一部として肝臓が新規の物質(ヘパトカイン)を血液中に放出し、糖尿病を悪化させることを明らかにし、また、血液中の遺伝子を測定することによって、がんを診断できる方法を開発し、生化学工場である肝臓の破綻と、肝臓から放出される物質が流れる血液、そして飽食の時代における疾病との関連をわかりやすく解説する。



第4回 金沢大学未来開拓研究 公開シンポジウム参加申込書

参加無料

参加ご希望の方は、必要事項を記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
電話・電子メール・Webでの申し込みも可能です。

シンポジウム申し込み締切

2011年10月24日(月)

お申し込み・お問い合わせ先：金沢大学 総務部 総務課 総務係

TEL 076-264-5010 FAX 076-234-4010

E-mail ffk@adm.kanazawa-u.ac.jp

※ご記入頂きました事項は目的以外の利用、第三者への提供はいたしません。

参加者氏名

職業

住所 〒

TEL

FAX

E-mail

@

次回以降のこのシンポジウム
に関するお知らせを

希望します / 希望しません